

学校だより 10月号

令和3年10月1日
鴻巣市立小谷小学校

小谷っ子

TEL 048 (548) 1004

FAX 048 (547) 1467

URL

<http://koya-e-konosu.edumap.jp/>

e-mail koya-e@city.konosu.ed.jp

毎月19日は「食育の日」です

【学校教育目標】 夢・希望にあふれる心豊かな児童の育成



「ありがとう」が言える人に ～始まりは、「あたりまえではない」と気づくこと～

校長 池澤 道弘

季節の変わり目で天候が安定せず、日によって気温差も大きかった9月が終わり、今日から10月に入ります。「災害級」と言われるほど急拡大し、猛威を振るっていた感染症もようやく落ち着きを見せてきたように思います。学校ではこの後も大きな行事が控えています。気を緩めることなく、今後も感染症対策に万全を期して教育活動を行ってまいりますので、ご家庭におかれましても引き続きご協力をお願いいたします。

さて、かなり前の話で恐縮ですが、私は若い頃友人に英語を教わっていたことがあります。彼は以前アメリカに住んでいたことがあって、別の友人が英語に非常に興味をもっていたので、一緒に教えてもらうことになったのです。(彼のレッスンは「日常会話」だったので、それまで学校で習ってきた英語とは違い、ジョークも交えて会話するなど、非常に衝撃的だったのをよく覚えています。)今はすっかり疎遠になってしまいましたが、その頃はレッスンだけでなく、時々食事に行ったり、居酒屋に行ったりもしました。その際、ふと、彼が料理等を運んでくれた店員さんに、必ず「ありがとう」と言っているのに気が付きました。私を含め、日本人はつい黙って受け取りがちなのですが、そういえば外国の方は必ずといっていいほど、こういった場面では「Thank you」と言っているように思います。「自分が何かしてもらったら感謝の意を伝える」という感覚が文化として根付いているからなのかもしれませんが、とても大切なことだと感じました。

あれからたくさんの年月が流れ、日本人の感覚もだいぶグローバル化してきたのではないかと思います。自分が何かをしてもらった時に「ありがとう」と言える感覚は、社会の中に根付いてきているのでしょうか?高度情報化社会の訪れにより、人間関係の希薄化が生まれ、残念ながら「ありがとう」と言える感覚は、まだまだ浸透していないように思えます。

人は、様々な他人との関わりの中で生活しています。毎日の生活の中で、どんなに関係が近い人であっても、どんなに小さなことであっても、してもらったことを「あたりまえ」と思わないことが「ありがとう」と、自然に言える第一歩になるのではないのでしょうか。

今、AIの進化に伴い、仕事の大半はAIにとって代わるのではないかとされています。確かにさまざまな仕事の処理速度はAIの方が勝っているのかもしれませんが、でも、AIに「感情」を委ねることはできません。人間は「心」のある生き物です。大人気の「鬼」との闘いをストーリーにしたアニメも、ただの勧善懲悪ではなく、様々な人間模様が生き生きと描かれているからこそ、人々の心を打つのではないのでしょうか。

学校は、学力を身に付けるところです。でも、それだけではなく多くの人と生活する中で、人との関わり方を身に付けるところでもあります。これからも、様々な場面を捉えて「あたりまえ」と思わず、「ありがとう」と言える心をもてるよう指導してまいりますので、ご家庭でも折に触れて「感謝の心」の大切さをお話いただければ幸いです。

